

PTA

やまがた

第48号

令和6年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 武田 靖裕

山形市十日町一丁目6番6号

(県保健福祉センター内)

TEL 023-631-0055 FAX 023-635-4359

・印刷所・

武田紙工株式会社

山形市和合町1-1-51 TEL 023(622)4187



第75回山形県PTA研修大会西置賜大会

《令和5年度山形県PTA連合会スローガン》

『人とひとのつながりを再確認しよう!』
～愛する子供たちの健全な育成と幸福のために～

HP:<https://www.ymgt-pta.jp>

『人とひとのつながりを』

再確認しよう！』

『愛する子供たちの健全な育成と幸福のために』

山形県PTA連合会会長 **武田靖裕**



日頃より山形県PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおいても子供たちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋として、ご尽力いただいたおりに心より感謝と敬意を表します。

昨年度の八月二十六日・二十七日に第七十回日本PTA全国研究大会山形大会を開催しました。山形県PTA連合会にとつて、共に汗を流した皆様とのつながりの共有やよりよいPTA活動への理解の醸成など、多くのものを得ることができました。また、令和五年五月八日から、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に変更され、単位PTAや各郡・市PTA連合会(協議会)でも様々な活動が実施できるようになったのではないのでしょうか。こうした中、山形県PTA連合会は『人とひとのつながりを再確認しよう』愛する子供たちの健全な育成と幸福のために『スローガンのもと活動を展開してま

いりました。

県P研修大会は、令和二年度は中止、令和三年度はユーチューブ配信、令和四年度は第七十回日本PTA全国研究大会山形大会で、令和五年度の第七十五回山形県PTA研修大会西置賜大会は四年ぶりの通常開催でした。記念講演は、東京大学薬学部教授の池谷裕二氏「脳から見た学習と成長」でした。池谷先生は、記憶のメカニズムを研究する若手研究者の一人で、テレビの情報番組のコメンテーターとしても活躍されています。子供たちだけでなく大人にとつても日常生活に活かせる内容でした。

県P連合同教育懇談会は「部活動の課題と地域移行について」生徒にとつて望ましい持続可能な部活動を実現するために『をテーマに、県教育委員会からの講話「部活動の課題と地域移行」山形県における部活動改革に係る基本的な考え方」の後、山形県高等学校PTA連合会・山形県教育委員会と意見交換をし、今後の取組と充実方策を探りました。また、「親子読書運動の推進」「広報紙コンクール」「親学の推進」等の、健全育

成・広報活動に取り組みました。「楽しい子育て全国キャンペーン 三行詩コンクール」では、本県から応募した作品が文部科学大臣賞を受賞しました。

子供たちを取り巻く教育環境は大きく変化しています。また、少子化や学校数減少等から「持続可能なPTA活動」を山形県PTA連合会として模索していかなければなりません。山形県PTA連合会はあらゆる変化に対応しながら、愛する子供たちの健全な成長と幸福を願い、これからも、親としてPTAとして出来ることを求めていきたいと考えています。

結びに、山形県教育委員会様をはじめ関係各位の皆様から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。あげ、あいさつといたします。

子供を支え、 未来につなぐ

山形大学附属中学校
校長 森本真紀



新型コロナ
ウイルス
感染症が五
類となりま
した。様々

な制限が緩和され、学校に本来の活動が戻ってきました。これに伴い、保護者の皆様に以前のように学校にお越しいただくことが再び可能になり、PTA活動も活気を取り戻しつつあります。本校の七月の運動会では、競技審判や生徒の安全確保にあたってPTA役員の皆様からの協力を得られるようになったことから、騎馬戦や伝統的な競技を復活させることができました。このように、生徒が企画した行事等を年間を通して支えていただいております。

今回は、コロナ禍であっても継続してきたPTA母親委員会の活動である「制服リユース×障がい者×ぞうきん作りプロジェクト」をご紹介します。

【目的】

- ①制服リユース販売の売り上げをぞうきん作りの委託費として利用し、生徒や保護者に直接還元する。
- ②コロナ禍で就労機会が減っている障がい者施設へ業務を発注することで、共生社会づくりに関する生徒・保護者の関心を高める。

【活動の流れ】

- ・リユースする制服と古タオルの回収
- ←
- ・制服リユース販売会(毎回、長蛇の列となります！)
- ←
- ・リユース販売会の収益で、ぞうきん作成を施設へ委託
- ←
- ・新年度に清掃用のぞうきんとして活用(各家庭のぞうきん作成の負担を軽減)

この活動は、家庭、学校、施設それぞれにメリットがあります。また、リユースを通してSDGs達成への実践、共生社会を目指した理解促進となる取組です。

子供たちの明るい未来に向け、今後も多くの方々からの協力のもと、活動を続けてまいります。

山形県PTA研修大会 西置賜大会を終えて

実行委員長 高橋義和



令和五年
十月八日、
第七十五回
山形県PTA
研修大会
西置賜大会

が多くのご来賓と山形県内各地よりPTA会員の皆様にお集まりいただき開催できましたことに、実行委員会を代表し、改めて御礼を申し上げます。

大会の開催にあたっては、県PTA連合会、実行委員の皆様方に事前準備や当日の運営、そして後片付け、記録の編集まで、たくさんのお時間を費やして頂きましたことに感謝しております。

本大会では「育てよう未来を拓く子供たち〜家庭・学校・地域でつなぐ『やる気』と『学び』の大会主題のもと、全体行事、記念講演で構成し、午前中に全日程を行う凝縮した内容となりました。記念講演では東京大学薬学部教授の池谷裕二様から「脳から見た学習と成長」の演題でご講

演いただきました。池谷教授は日本が世界に誇る脳研究者の一人であり、特に海馬の研究を通じて、脳の健康について探求されております。親は子供たちのやる気スイッチはどこにあるのだろうか？と心配してしまいがちですが、「脳科学ではそのようなスイッチはない！」との教授の言葉に会場が沸騰している皆さんは驚きと同時に、ではどうしたらいいのだろうか？という空気になる中、会場全体が教授の講話に夢中になりました。質疑応答の時間では多数の質問があり、何かを得ていきたいと必死にメモをとる方々が多くおられました。しかしながらこの研修大会は参加した人だけが理解してもそれは自己満足にすぎません。この学びを持ち帰り、参加できなかったPTA会員の皆様や地域の方にしっかりと伝えていく、それを実践していくことで子供たちの成長に結びつけることができれば、この研修大会の目的が果たされるものだと思います。

このような大会を開催させて頂き改めてPTAの団結をより一層深めることができたのではないかと実感しております。子供たちの輝かしい未来に向けて、それぞれが自分らしさを大切に、共に考え活動し、共に楽しめるPTA活動を再確認できた大会でした。



県P連 母親委員会
委員長
高橋 あゆみ

山形県PTA連合会母親委員会の活動にご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、各郡・市PTA母親委員会におかれましては感染症対策に気を付けながらアフターコロナでの活動を再開していただき感謝申し上げます。

今年度も母親委員会は「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子供たちの生きる力を育んでいけるよう願いをこめ、人とかかわりの大切さやかかわる喜びを実感しながら、学びの場になるよう活動してまいりました。各地区での活動をお互いに伝え合うことにより、より良く活発な活動に繋がればと情報交換も盛んに行いました。ミニ研修会では「母親委員会の成り立ちとこれからの在り方」について学び、過去を知り未来へ繋いでいくには…を深く考える機会となりました。「母親委員会だより」

をご一読いただき、諸活動の情報を共有していただければ幸いです。

母親委員会につきましては、ジェンダー平等の時代に『母親』という名称がついている会について様々なご意見が出ていることは承知しています。全国的にはPTA会長のお母さんの割合が増え、母親委員会という組織自体が必要ではなくなった地域もあると聞きます。しかし山形ではまだまだ多くの学校でお父さんがPTA会長を担ってくださっています。お父さん方が積極的に子供たちの育ちに参加してくださることはとても心強いことですが、一方でお母さん方の意見や想いを発信できる場はまだまだ少ない状況です。母親委員会は「子供たちの一番身近な存在である」お母さんの想いをもとに、お母さんだから・女性だからこそ気づく問題点・課題を広く吸い上げ、集約し、発信していく貴重な場です。子育てにかかわるすべての方々「子供たちのために何ができるか」を共に考え、手をたずさえながら、これからもより良い子供たちの育ちのための活動に繋げてまいります。

各地区の活動報告

《最上地区》

- ◆地区母親委員会全員研修会 1回(講演・演習)
- ◆代表母親委員会 2回
- ◆母親委員会だより「かあちゃんホットライン」発行

《北村山》

- ◆村山市P:委員会・読み聞かせ
- ◆尾花沢市P:リサイクル活動・おたより発行
- ◆大石田町P:母親委員交流会・おたより発行
- ◆東根市P:組織なし

《上市市》

- ◆母親委員会 1回
- ◆保護者研修会
演題:不安を「成長」に変える!
子育てのコツ
講師:和田 由紀子氏
(MOTHER design 代表)

《東置賜地区》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が
県P連母親委員会に出席する

《米沢市》

- ◆母親委員会 2回(活動報告・講演会)

《山形市》

- ◆テーマ 「いのちの尊さ大切さ」
～守りたい。家族の健康とみんなの笑顔～
- ◆定例母親委員会 3回(研修会・情報交換)
- ◆拡大母親委員会 1回(「いのちの大切さ学習会」共催)
研修:家庭・地域での性教育～産婦人科医からお伝えしたいこと～
講師:井上聡子 氏 (さとこ女性クリニック 院長)
- ◆親学 家庭教育視察研修(山形広域炊飯施設・学校給食センター
市民防災センター視察)
- ◆母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.28発行



《天童・東村山地区》

- ◆母親委員会総会(中止)
- ◆母の集い(研修会)
※地区P研修会と兼ねる

《西置賜地区》

- ◆母親委員会 1回(中止)
- ◆県P連母親委員会との交流会へ参加
- ◆地区P理事会への参加
(母親委員長のみ参加)

《西村山》

- ◆母親委員会 (2回) 協議・研修
- ◆代表委員会 (2回) 企画・運営
- ◆母親委員会だより

《酒田飽海》

- ◆市P連母親委員会(情報交換)
- ◆酒田飽海PTA研修大会協力

《東田川郡》

- ◆母親委員会2回
(活動報告・情報交換)

【令和5年度 母親委員会】



《鶴岡市》

- ◆鶴岡市P連事務局会、常任委員会への参加
(正副委員長のみ参加)
- ◆市P連の会議研修会、懇談会への参加

テーマ 「部活動の課題と地域移行について」

～生徒にとって望ましい持続可能な部活動を実現するために～

公立中学校の休日の部活動の段階的な地域移行が始まりました。休日の部活動を地域移行する背景には、学校の教育現場で部活動に取り組む「生徒」と、それをささえる「教員」や「学校」が抱えるさまざまな課題があります。部活動の地域移行は、現在の部活動を単に地域に出すということではなく、各地域の実情やニーズに合わせて、子供たちにとってさらに充実した環境を整備するものであり、学校や地域、スポーツ界など各方面の関係者が一緒に行う取り組みといえます。

スポーツ庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】」が令和4年12月に示されました。学校部活動は中学生を主な対象者とし、高校生も原則適用。学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境整備や大会等の在り方の見直し等は、高校は実情に応じて取り組むことが望ましいとされています。

「山形県における部活動改革のガイドライン」が令和5年3月に示されました。今年度の教育懇談会は、山形県の担当者より「山形県における部活動改革に係る基本的な考え方」や「部活動改革に向けた学校の体制整備」などをお聞きし意見交換等を行うことで、生徒にとって望ましい持続可能な部活動を実現するための一助となるように実施したものです。

話題提供

県教育委員会教育局スポーツ保健課長 村上 周市 氏

1. 部活動の課題と地域移行
2. 山形県における部活動改革に係る基本的な考え方
3. 部活動改革に向けた学校の体制や新たな地域クラブ活動の環境整備等

以上の話題提供を受け、①各校・各地区の部活動の課題と地域移行について、②「部活動の地域移行について」の保護者としてできることは、③地域の持続可能で多様な一体的に整備するには、この3つの視点からグループ別に意見交換が行われました。

(3つの視点についてグループでの意見から一部を掲載)

- ① 部活動の任意加入や少子化により、団体競技は部員数が減少し合同チームでの活動となってきている。合同チームすら作れない競技や地域においては、本来望んでいない個人競技に在籍したり部活動未加入となっている。また、そのために人間関係が狭くなりいじめへ発展するのではという不安と、時間を持て余してゲームばかりすることへの不安が募っている。専門の指導者がなかなかいない。また、文化部の地域移行が進んでいない気がする。
- ② 任意加入や地域移行となることで、送迎や費用等の保護者の負担が生じてしまう。そこに不安や不満を持ってしまいがちだが、時代の変化ということで、保護者自身の意識改革が必要となってくるのではないかと。
- ③ 子供たちにきちんとした情報を与える場を作り、継承者を育成し、地域・自治体・学校・保護者が協力し合って地域全体のスポーツ・文化活動を進めていくことが必要ではないかと。

<講評と総括>

生の声の意見交流がいかにか大事かと感じた懇談会だった。当事者意識を持った保護者が学校と地域と共有し、子供も交えて「考え始める」「話し合いを始める」「継続していく」ことが大事である。まさに昨年度の合同懇談会のテーマでもあった「コミュニティ・スクール」「地域学校協働活動」の一体的な実施が大切になってくる。

<まとめ>

部活動の地域移行にあたって「子供たちのために何ができるか」を考え、それぞれの立場の方々と協力して進めていくことが大切です。そのためにも説明会や意見交換会等を広く継続して行うことが必要であると感じました。熱心に話し合いをしていただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。



山形県PTA連合会副母親委員長 高橋 智文



親子で読書 深める絆



～本を読む子はかならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をとおして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子供の心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

本校PTAは開校以来、家庭での団らんを大切に、家族のコミュニケーションをさらに豊かなものにしていくために、「NOゲームデー」運動を継続して通年で行ってきました。さらにそれを進めて、学区にある中学校と連携して毎週木曜日に取り組んでいる運動を、「NOゲーム&メディア・YES読書デー」として取り組んでいます。「YES読書」という言葉に込められているように、読書活動を一層奨励しています。全校一斉に家庭でゲームなどを我慢し、親子での読書やコミュニケーションを通して、コミュニケーションを豊かにすることをねらっています。実施の状況を知るため



上山市立宮川小学校



NOゲーム&メディア・YES読書デー

親子読書・地域の活動

本校では、二〇〇〇年から、朝活動の時間に絵本の読み聞かせを行っています。中山町内にある「ほぐわあつ」という読み聞かせの団体のお手伝いをいただき、年一回行っています。今年度も十二月上旬に全学級にて行われました。二十分間という短い時間で、しかも絵本を読み聞かせるのですが、大人が聴いても絵本の内容に感動し、つい涙を流す場面もありました。薄い絵本の中に、喜び・怒り・悲しみ・楽しみが詰まっています。子供たちは、語り手が紡ぎ出す一つひとつの言葉に熱心に耳を傾けていました。



絵本の読み聞かせ

中山町立中山中学校

に、期間中取り組みカードへの記入もしています。PTA生活部を中心として、「取り組みカード」の結果を分析・考察しながら、子供たちの生活力の向上を目指しています。

「中学生に本の読み聞かせ？」と思われる親御さんもきつというらっしゃるかと思えます。私が中学生の頃、教育実習に来てくれた大学生のお姉さんが、自身の中高生時代の話をしてくる機会がありました。将来を有望視されたスポーツの選手だったのに、大怪我をしてしまい、色々な葛藤の末、教職に進む道を選んだ今ここにいます。身近な人の生きた声と話にとっても感動し、涙が止まりませんでした。その経験は、私とその先歩んできた人生の中で幾度となく思い



本の読み聞かせ活動
地域で子供たちを育てる

村山市立楯岡中学校

黙って自分のイメージで読書をするのもとても楽しいことですが、保護者や近所の大人たちが心を込めて読んでくれるのを聴くことも、子供たちにとって心を耕すよい機会となっています。

出され、私を支えてきてくれたと思うのです。

中学生への読み聞かせは、思春期の中学生の心に栄養と潤いを与えられるような活動だと思いがら取り組んでいます。

そして、とても真剣に耳を傾けてくれる大きな子供たちに、毎回胸がいっぱいになります。今年度は、広く読み聞かせボランティアの協力も呼びかけ、母親委員以外の保護者のお父さん、お母さん、地域の方、職員のOBの方にもご協力頂きました。読み聞かせを終え、地域で子供たちを育てているという安心感や嬉しさも強く感じることができました。

こんな本を読みました！

- ・なまえのないねこ
- ・まよいが
- ・ちっちゃこいやつ
- ・ねこの看護師ラディ
- ・とうふこぞう
- ・まばたき
- ・しろ
- ・風の旅
- ・おおきな木
- ・鈴の鳴る道
- ・いのちのおはなし
- ・光の旅かげの旅
- ・ぼくたちはなぜ学校へ行くのか
- ・にんげんだもの
- ・心に響く小さな9つの物語
- ・死にがみさんとアヒルさん
- ・ねこはるすばん
- ・せかいいちうつくしいぼくの村



- ・世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ
- ・100年たったら
- ・せかいでさいしょにズボンをはいた女の子



浜田広介先生が学んだ 屋代小学校



高島町立屋代小学校

本校は、浜田広介先生の母校として知られています。毎年、広介先生の作品を暗唱したり、感想文・感想画に取り組んだりする「ひろすけ学習」を行っています。そうした広介先生からの教えを受け継いで、充実した読書に触れながら、多様な読書活動を行っています。

家族読書

年に三回、家族読書の取り組みを行っています。低学年では、お家の方が読み聞かせをし、中・高学年では、親子それぞれが本を読んで感想を書きます。その後、図書だよりを発行し、お家の方から寄せられた様々な感想をお知らせしています。



お家の方から寄せられた ご感想の一部

◎せかいでさいしょにズボンをはいた女の子

なるべく親目線で読んでほしい本を選びました。本を読むだけでなく、内容について話をすることできるような考え方があることを知れたと思います。また、すごいと感じたことを自分の言葉で話すことでよく考えるいい機会になったと思います。貴重な機会をありがとうございました。

(二年生保護者)

◎みえるとかみえないとか

この本は自分が見えている世界が必ずしも同じではないと教えてくれる本です。目の見えない人、身長の高い子どもなど、その人しか見えない世界もあり、自分が見えなくても世界は広いことを教えてくれたお話しでした。

(三年生保護者)

◎羅生門

学生の頃教科書で習いましたが内容をあいまいにしか覚えておらず今回読んでみて、「あーこんな話だったな」となつかしく思いました。状況によって人の感情は移り変わることに、時と場合によって必要な悪もあるということを感じたいのではないかと思います。

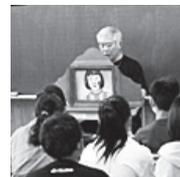
(六年生保護者)



心の栄養、 「ビタミンブック」

酒田市立松陵小学校

本校ではボランティアの方々が、年八回各クラスで読み聞かせを行っています。(通称「ビタミンブック」)それぞれ自分が好きな本を持ってくるので、子供たちは毎回、何を読んでくれるのかとても楽しみにしています。



私自身も、読み聞かせのボランティアの一員です。「読んだことある?」「どうだった?」と、子供たちと会話をしながら、読み聞かせが楽しい時間になってほしいと思つて活動しています。また、読み聞かせが終わった後に全員で集まり、読んだ本を紹介したり、子供たちの様子を報告したりもしています。家で読み聞かせの練習をしていると、自分の子が「次その本を見せて。」といういろいろな本に興味をもつようになりました。



絵本に触れると、想像力が豊かになります。また、それぞれの本から元気をもらったり癒されたりもします。これからも、何回も繰り返し読んで読みたい本との出会いを応援していきたいと思つています。

学校・家庭・地域の連携強化に取り組みPTA活動 一五〇年の歴史をつなぎ未来へ

村山市立楯岡小学校PTA会長 大山拓也



はじめに

本校は、村山市東部、甕岳の麓に広がる里山地域にあり、豊かな自然に囲まれた環境で子供たちは学校生活を送っている。明治六年に開校し、今年度で創立一五〇年を迎えた。児童数五〇〇名で村山市の中核校である。

市では小学校入学応援事業として令和五年度から新入生全員に登下校で使用するモンベル製の軽量力パンの贈呈を行い、子供の体への負担と経済的負担の軽減を図っている。また、学校後援会など地域の方々からたくさんの方々の支援をいただきながら活動を行っている。

一、特色ある取組について

(一)郷土愛の醸成、親子の絆づくり
「甕岳親子登山」



「やまがた百名山」の一つ、甕岳は校歌にも登場する地域のシンボルであり、楯岡出身の偉大な先人、北方探検家の最上徳内翁が登頂し志を立てた山である。六年生の親子を対象にPTA総務委員のメンバーが企画・

運営に取り組み実施している。歴史を感じながら登山することで、郷土愛の醸成が図られ、親子の絆を深めることにもつながっている。

(二)他校PTAと連携した中学校進学の「子ども交流事業」

楯岡中学校に進学予定の三つの小学校の子供たちが交流する機会をつくり、出会いと融和を図ることによって中一ギャップの解消に努めている。市連合子ども会育成会を事務局に各小学校PTA役員で構成された実行委員会で実施し、二十年以上にわたって継続している。指導者の進行のもと、構成的グループエンカウンターなどを実施している。交流事業終了後、子供たちが記入した自己紹介カードをまとめた冊子を配布し情報を共有している。

(三)伝統ある楯岡小合唱部

県内を代表する楯岡小合唱部は今年度で創部四十三年目を迎えた。全日本小学校合唱コンクールでは二年連続金賞受賞するとともに、NHK全国学校音楽コンクール県大会では十四年連続金賞、今年度は東北大会銅賞を受賞するなど、数々のコンクールで金賞を受賞し輝かしい実績を築いてきた。そして、今年度より学校が担ってきた指導や運営を地域に移行することとなった。本校卒業生で合唱部OGの方が指導者となり元職員の先生方が運営側として活動

している。保護者PTAと地域の協力により地域移行を成し得た事はこれまで受け継がれてきた合唱部に対する愛情と努力の賜物である。

(四)PTAと「子ども会育成会」

本校のPTA会員数は、ここ十年で半減した。今後も児童数やPTA会員数は減り続けることが想定されたために、令和元年度にPTA規約を見直し、組織のスリム化と事業の整理を行った。専門部の数や常任委員の人数、時期的な重なりが多かった各種事業が整理され、会員の過度な負担が解消された。

二、成果と今後の方向性

楯岡小学校の創立以来、多くの先生方や保護者、そして地域のご支援とご協力のおかげで一五〇年という長い歴史をつなぎ、伝統を創り上げてきた。しかし、今後は村山市においても子供の数の減少が、より一層進むと考えられる。これまで家庭教育のPTA活動、地域教育の子ども会育成会活動の意義を踏まえ、保護者数が減っても活動を継続していく必要がある。また、コロナ禍を経て著しく変化する時代であるが、こういう時こそPTAの存在意義は大きいと考える。これからも学校・家庭・地域と連携強化を図りながら持続可能な活動を続けていきたい。

すべては子供たちの未来のために。

子供たちの笑顔のために、PTA活動を楽しもう とともに育つ・つながる・機能する

鶴岡市立大山小学校PTA会長 **伊藤 野々美**



一、はじめに

本校は鶴岡市の西部に位置した大山地区と、海岸に面した加茂地区の二地区からなる。平成二十九年に旧大山小学校と旧加茂小学校が統合し、新大山小学校として開校し今年で七年目を迎えた。全校児童数三百三名の中規模校である。大山地区は、高館山やラムサル条約に登録された大山上池・下池を有し、自然豊かで歴史的な文化を感じさせる地域である。加茂地区は、商港として栄えた町であり、北前船の寄港地として、日本遺産にも認定されている。大山小学校では、地域の豊かな自然や歴史と文化を取り入れたふるさと学習に力を入れ、子供たちの健全育成と郷土愛醸成のために、学校・家庭・地域の連携・協働を目指し取り組んでいる。

二、特色ある取り組み

① 親子読書活動

親子読書は、旧大山小の時代から五十年以上の歴史がある。各学級の役員が選本し、数人のグループの家庭で回し読みをする。読み終えたら親子で感想を書き、次の家庭へ回していく。親と子、グループの家庭同士が、本を通して、心の交流を図っている。今後、コロナ禍により実施できずにいた「親子読書祭り」をできる範囲で復活させていきたいと考えている。

② 親も子も交流し合う学年行事

本PTAの学年部では、各学年の実態に合わせて親子で思い出に残る学年行事を実施している。また、保護者と先生で子供たちの頑張りや子育ての悩みなどを話題にしながらの情報交換の場として「成長を語る会」を実施している。

③ 地域・学校との連携を図る「PTCA」

親と子、地域の方々、先生が一堂に会し、地域ごとに話し合いを行う「PTCA」を年に一度開催している。危険箇所の確認や地域での生活の振り返りを子供たち自身の進行で話し合うことで、自分の住む地域への関心を高める良い機会となっている。学校・家庭・地域のコミュニケーションを図る良い機会ともなっている。

三、特徴的な運営体制

① 組織改編によるスリム化

本PTAでは、今後の児童数減少に伴う会員数の減少を見据え、令和四年度に組織改編を行った。今まであった四つの専門部を廃止し、事務局を中心に、学年部と地域部の二部体制とした。活動方針に沿い、もつと気軽に、子供たちのために学校を支えることはできないかと考え、「大山小サポーター」制度を立ち上げた。

② サポーター制度でポジティブな関わり

高館山の下草刈りや登山の引率、町探検や自然教室の見守り、プール清掃、水泳、家庭科等の授業補助、ベルマークの集計作業など、学校のニーズに合わせて、できる人が、できる時に、できる範囲で、学校活動に参加しサポートをしていく体制づくりを行った。無理なく、子供たちの

成長の様子を身近で見守ることができ、協力者も増えてきている。今後は地域を巻き込んだ仕組みにしていきたいと考えている。

③ 学校PTAだよりを情報発信に活用

年三回発行の大規模なPTA広報紙を廃止し、事務局からは全体の活動を、学年部からは学年行事を行った様子を学年ごとに、PTAだより「高館」として発行し、より細かな情報発信を行っている。他学年の活動を知れて良い、自分の学年でもやってみたいなど、活動ごとの取り組みを積極的に紹介し合うことで、学校全体のつながりを深めている。

四、成果と今後の方向性

令和四年度の組織改編と、コロナ禍で十分な活動ができない時期が続いたことで、役割や活動の引継ぎがうまくいかない部分が生じた。引継ぎや活動内容を明確にし、新たな視点も取り入れながら、今後も持続可能な活動ができるよう、運営を工夫修正していきたい。

これからも、ともに学び、つながりを大切にするので安心して生活できる環境をつくれるよう、子供たちの笑顔につながるPTA活動を、楽しみながら展開していきたい。

この文章に目を留め、完読する方が何人いるのか分からないのですが、読み終えた方の記憶にしばらくは残るものを提供したいと思ひながらキーボードをタイプしております。

今に始まった事ではないのかもしれませんが、PTA活動に否定的な方、参加することを拒む方は一定数いらっしゃいます。どちらかと言うと多数派です。多様性を享受する時代ですのでPTA活動に対して多様な考えが聞こえるようになってきたのは、ある意味喜ばしいことでもあります。一方、私のような人間は、好き好んでPTAに参加している少数派の間でもあります。自ら会長に立候補したりもするので、少数派の中でもごく少数派です。個人の日常生活に隙間を作つての活動となることもあるので、精神的にも体力的にも辛いタイミングは確かにあります。PTA活動に対して、参加するもしないも自由ですし、肯定的でも否定的でも自由にグラデーションがあつて良い時代です。ところが、PTA活動は、学びやお得なことが多いという事実は、主体的に参加することではか気付かないことであつたりもします。子供の学校生活を覗き見る時間が増えることはもちろん、学校との情報交換が密になることか

ら、得るものが大きいと感じています。今回のような全国規模のイベントに参加すると、その得るもの大きさをまざまざと実感させられるものです。その際たるものとして、「評価とは、相手への応援であるべきだ」という言葉を聞いたことでした。中央教育審議会会長の荒瀬勝己さんの基調講演の中の言葉です。なぜ評価するのか、どのように評価するの

間の旅程で、自分の教育観を補強させてもらえる言葉に出会つただけでPTA会長を拝命した意味は大きいものと感じられました。そもそも日本PTA全国協議会長の表彰の受賞は、これまで金山中学校のPTA活動を支えてきてくださった諸先輩、ならびに現会員の皆様のおかげで成し得た出来事です。平伏し感謝するところが大きいです。ま

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

変わるものと変わらぬものと



金山町立金山中学校PTA会長

栗田伸一

か、する側とされる側が共有しオープンにすることで評価は応援のツールとなるようです。私の性格上、ネガティブな思考が強く、「評価」という言葉に対しては、優劣を決める尺度、他との比較検討材料であると捉えているところがありました。だからこそ、今回「応援である」という肯定的響きのキーワードが胸に刺さつたのではないのでしょうか。片道五時

た、事務局を中学校に置いている都合上、多くの事務作業を担つてくださった先生方の尽力無しには受賞できなかつたものと改めて感謝する機会ともなりました。そのような感謝に至る気づきを与えてくださったことすらPTA活動に参加してきた賜物でもあります。

令和四年度には、会員の意見や要望を聞き、地区評議員を廃止しまし

た。評議員とは、体育後援会賛助会費の呼びかけや集金活動を担う方々です。担当する地区によって作業量の差があつたことや、地域住民からの苦言が多かつたことから、精神的なストレスが強い立ち位置だつたようです。役員の方が現場の声を吸い上げ、事務局の先生方が丁寧に検討資料を作成してくださったおかげで、意見交換を重ねる作業ができました。結果として、生徒数の減少、部活動数の減少という現状にフィットするPTA組織体制に変化することができました。

このような新しい動きもあれば、「中古ランドセルの寄贈」、「制服お下がり品」といった、脈々と継続する活動も存在します。いずれの活動もPTA専門部である母親委員が中心となつて運営して下さつています。今の世で言えば、リユースやエコといった言葉に置き換えられる活動です。

金山中学校PTA活動は、長きにわたり継続されてきたものと、その時代その時代に合わせて変化を加えてきたものと、まさしく創意工夫の積み重ねのようです。先代の知恵と努力に敬服しつつ、次代の礎となれる活動を繋げていくことが我々の最低限の責務のようです。

一、学校・地域について

玉庭小学校は、児童数七名、へき地一級の小規模校です。今年度創立百二十年を迎えましたが、PTA組織としても長い歴史を持っており、昭和二十二年、玉庭地区全戸と小中学校教師とで「玉庭村父母と教師の会」を結成したのが始まりです。平成二十一年より学校支援地域本部、平成二十六年には学校運営協議会も設置され、地域と連携した教育活動を展開しています。平成二十七年の学校支援本部事業、翌二十八年の「早寝・早起き・朝ごはん」運動に係る取組が文部科学大臣表彰を受賞しています。

二、本校の取り組み

①子供・保護者・地域がともにつながる活動

学校の運動会や学習発表会を、地区交流センターの事業と共催したり同時開催したりすることで、地区住民や保護者も一緒に参加し、会を盛り上げていきます。

校舎内のワックスがけ、プール掃除、早朝作業による校舎内外の清掃などは、親子で清掃したり、地域住民とともに作業したりしています。教育環境の整備はもちろんのこと、地域の学校として、子供たちの姿を見てもらったり、ともに活動したりすることで、地域と学校との結びつ

きに寄与しています。

②みんなで楽しむ・みんなで学ぶ専門部活動

学年部が中心となり、学年行事として、全学年の親子が一緒にできる活動を企画しています。地域の方の話を聞きながら地区内を回るウォークラリーやユニホッケーなど、親子はもちろん、保護者や地域住民との交流も深まるようにしています。

ど、保護者の関心や希望を取り入れたテーマで企画し、講師を迎えて話を聞いています。「食育・植育」や「IGAスクール構想」「メディアとの接し方」など、家庭教育にいかしたり、知見を深めたりしています。

③その他の取り組み

PTA、学校運営協議会、地区交流センターが中心となって、長年取組んできた「早寝・早起き・家族で

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

家庭・学校・地域

三位一体で成し得たPTA活動



川西町立玉庭小学校PTA会長

石黒知和

広報部の活動として、広報紙作成と、学校生活に関わる標語を子供たちから募集しています。年ごとに「楽しい学校生活」や「防犯」等とテーマを決め、全校生の作品を掲載したポスターを制作し、地区内全戸に配布しています。

事務局が中心となって、教育講演会を実施しています。家庭教育に関わることや最近の教育についてな

朝ご飯「運動を定着させながら、「みんなでスポーツ！みんなで読書！」も体も豊かな玉庭人」の取組をしています。PTA親子読書を全家庭で取り組んだり、学校の大人図書館の貸し出しを行ったりしました。

登下校時の見守り活動、青パトボランティア、交通安全母の会や防犯協会との連携による交通安全指導や防犯見守りを実施しています。

三、成果と課題

保護者と教員の会員数は少ないですが、地域学校協働本部や地区交流センター等、地区全体の協力を得て、一体となった活動を行ってきました。子供たちが地域のことを学ぶ意欲や、地域で子供たちを育てる意識が高まり、地域振興にもつながっています。

本校は、令和六年三月をもって閉校となります。活動の主体は変わりますが、引き続き、玉庭の子供たちを地域で育てるような取組が続けられたら良いと考えています。



つなぐ伝統、見守る大げやき

東根市立東根小学校PTA会長

石山 慎治



この度、東北ブロックPTA協議会より表彰を賜り、大変喜ばしく感じております。これも、PTAの先輩方が長年にわたり主体的活動を展開されてきたことや、現会員や教職員の皆様による日頃のご尽力の賜物であり、感謝の念に堪えません。

当校は東根市の中央部に位置し、地区内は生産量日本一のさくらんぼをはじめとした果樹園地が多く、また区内各地に史跡やさくらんぼ東根温泉があることから、観光客も多く訪れています。現在四九一名の児童が在籍し、次年度令和六年度には創立一五〇周年を迎えることとなります。

当校PTAでは、学年ごとに企画される学年行事において、地域交流を通じ伝統や歴史に触れる機会を創出しています。下学年では、毎年恒例のさくらんぼマラソン大会の沿道応援を通

じた交流、上学年では、東根公民館との共催で田植えや稲刈りを行い米作りの一連の作業を学びます。稲刈り後は残った稲わらを編み上げ「こも」を作りつなぎ合わせ、長さ約十八メートルの横綱を製作します。毎年四月には「横綱パレード」にて児童・保護者と教職員で地域をねり歩き横綱をお披露目します。最後は当校敷地内にそびえる樹齢一五〇〇年以上とされる国指定特別天然記念物【大げやき】前に飾りつけられ、それを眺める児童や我々PTAは、喜びと誇らしさを感じています。

そんな事業の中で、PTA会員が最も力を注ぐのが【ふれあい楽校】です。これは、保護者がクラス単位で内容を企画し、もの作りやスポーツ体験ができる模擬店を校内で出店するものです。お客さんとなる児童は、毎年この日を楽しみにしており、それに応えようと保護者も熱を込めて準備し、児童に負けず大人も楽しみながら取り組んでいます。

コロナ禍を経ても、児童・保護者・学校・地域との関わり合いの場を失くすことなく、伝統を大切につないでいきたいと考えています。いつも穏やかに見守ってくれている大げやきと共に、子供たちのたくましい成長を祈りながら、これからもより良いPTA活動を推進していきたいと思っております。

地域コミュニティとの連携がみせる学校のあるべき姿とは

鶴岡市立鼠ヶ関小学校PTA会長

会長 佐藤 紘平



このたび東北ブロックPTA協議会会長表彰を受け私が感じたことは、子供たちが有意義に暮らすことが出来ている証は、地域コミュニティとの連携にあるのだという実感でした。

我が母校でもある鶴岡市立鼠ヶ関小学校は山形県と新潟県の県境にある小さな学校です。時代の波と共に児童数は減少の一途を辿り、鶴岡市内の中でも児童数が少ない（現在六十人）小規模学校のひとつです。ちなみに現在その減少傾向は拍車が掛かっており、来年再来年と今後の児童激減により複式学級（現在の複式学級は一クラス）が増えることになると予想されています。

そんな中でも鼠ヶ関小学校の子供たちはのびのびと明るく過ごしており、地域の特徴としての環境を最大限に活かした特色豊かな学びが自慢です。例えば、盛んな水産業の現場での漁業体験や、在来

作物である「温海カブ」の種まき収穫&漬け込み体験、そして全国でも珍しいヨット教室など、豊富な自然と学習環境の恩恵に与り、またそれを余すところなく学校外での「学舎」として活用できる鼠ヶ関小学校を取り巻くこの地域は、子供たちにとって切っても切り離せない密接な存在であると思っております。

筆頭にもありましたが、このように子供たちが有意義に暮らし学ぶ事ができるのは、その綿密な存在そのものに足場を整え続けてくれた地域の方々に他ならないのです。時代の流れと共にコミュニティの縮小がありつつも、「地域ぐるみ」という小さくも輝ける地域コミュニティが、この土地を支え、働き手を支え、子供たちを支える存在であり、まさに地域ぐるみでの東北ブロックPTA協議会会長表彰だったのでないかと痛感しております。

最後になりましたが、鼠ヶ関小学校は今年で記念すべき開校一五〇年を迎えました。記念行事も控えております。学校の場所や建物、名称が変わりながらもこの地域で人々を支え続けてきた存在である学校と共に、文化の継承や伝統の保持を今後も続けていけるよう邁進していきたいと思っております。

日本PTA全国研究大会広島大会に参加して

山形県PTA連合会副会長 長谷川 吉之介



八月二十五日(金)・二十六日(土)に、第七十一回日本PTA全国研究大会広島大会が、「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！」と見つけ 考え かわろうや ぶち樂しいで！〜広島から全国へ」を大会スローガンに開催されました。全国より六千八百名を超える参加者が集まりました。県内から二十三名の会員が参加しました。

二十五日の分科会では、基調講演・実践発表・パネルディスカッションがありました。二十六日の全体会

では、株式会社感性リサーチ代表取締役で人工知能研究者、感性アナリスト、随筆家の黒川伊保子氏より、『心のトリセツ』『逃げ癖』を『意欲』に変える脳科学』の記念講演でした。

今回の広島大会はテーマに「学びの変革」を挙げています。急激な変化が予想される今後の社会情勢を乗り切るために、保護者も子供も新たな学びが必要という思いが込められていました。新しい時代を生きる子供たちの育成のヒントを得ることができたと思います。

人とひとのつながりを体感しながら多くの学び、会員同士の連携を深め合うことができた二日間でした。



東北ブロック研究大会富谷黒川大会に参加して

山形県PTA連合会副会長 國分亮一

第五十五回東北ブロック研究大会富谷黒川大会が、「東北一心 新たな時代へ 一期(いちご) 一笑(いちえ) 未来を切り開け！持続可能な地域づくり・PTAづくり」をテーマに開催されました。



当日は東北各

県より千四百名が参加、初日の分科会では、「登校を渋る子供に向かい合う場面での親の姿勢や気持ちの持ち方、発する言葉」がテーマの特別分科会へ参加、宮城県のスクールカウンセラー湊谷愛氏の話を拝聴しました。最近では親と子供の会話で日々の確認だけになり、ダメ出しの会話が多い、指示だけでなく普通の会話が必要、できたことをほめるのではなく子供の存在をほめることや自己の

存在に対する肯定を子供は望んでいる。振り返ると、子供に注意しかしていない自分に反省しました。親から無条件に、充分に、永遠に愛されている実感、自分が親に喜びを与えているという実感が子供の願いであり、子供の元気のもとであるとのことでした。

翌日のリオ五輪のバトミントン金メダルリストである高橋礼華さんの講演「夢を実現させる三つの方法」では、①ものまねは上達の近道、②量はうそをつくが質はうそをつかない、③あたりまえのレベルの水準を高く、という体験を元にした講演を、興味深く拝聴しました。

大会へ参加したことで、新たな気づきが多く、大変有意義でした。今後、多くの方々に参加をしていただければと思います。



栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩で文部科学大臣賞、PTA広報紙全国コンクールで奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。
(敬称略)

令和5年度PTA活動振興功労者文部科学大臣表彰

(個人)

荒井 寛(第24代山形県PTA連合会会長)
鈴木 真一(第25代山形県PTA連合会会長)

令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

(団体)

村山市立楯岡小学校PTA
鶴岡市立大山小学校PTA

令和5年度日本PTA全国協議会会長表彰

(団体)

金山町立金山中学校PTA
川西町立玉庭小学校PTA

(個人)

佐藤 弘康 県P連前副会長(西村山PTA)
味田 勝徳 県P連前副会長(西置賜地区PTA)
齋藤 春樹 県P連前副会長(東田川郡PTA)

令和5年度日本PTA全国協議会会長特別表彰

(個人)

小林 一善 (山形市PTA)
高見 佳澄 (山形市PTA)
津藤 健士 (天童・東村山地区PTA)
野口 義明 (鶴岡市PTA)
五十嵐 孝 (鶴岡市PTA)
木村 信洋 (西村山PTA)
丸川 信明 (米沢市PTA)
柿崎 和朗 (最上地区PTA)
油井 邦宣 (東置賜地区PTA)

令和5年度東北ブロックPTA協議会会長表彰 感謝状

船橋 吾一 県P連前会長(山形市PTA)

令和5年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

(団体)

東根市立東根小学校PTA
鶴岡市立鼠ヶ関小学校PTA

(個人)

原田 拓 県P連前理事(上山)
津藤 健士 県P連前理事(天童・東村山)
平山 龍一 県P連前理事(北村山)
柿崎 和朗 県P連前理事(最上)
鈴木 勝志 県P連前理事(米沢)
油井 邦宣 県P連前理事(東置賜)
野口 義明 県P連前理事(鶴岡)

石川 雄一 県P連前理事(酒田飽海)
渡部香陽子 県P連前理事(副母親委員長)
吉田 正彦 県P連前監事(上山)

令和5年度優良PTA山形県教育委員会表彰

村山市立楯岡小学校PTA
東根市立東根小学校PTA
山形市立第五中学校PTA
山形市立第四小学校奨学会
金山町立金山中学校PTA
最上町立向町小学校PTA
川西町立玉庭小学校PTA
南陽市立荻小学校PTA
鶴岡市立大山小学校PTA
鶴岡市立鼠ヶ関小学校PTA

令和5年度「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩

(文部科学大臣賞)

松田 蒼 (左沢町立左沢小学校5年)

令和5年度全国小中学校PTA広報紙コンクール

(日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞)

酒田市立琢成小学校PTA 「琢成」
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA 「ひなづる」
鶴岡市立朝暘第三小学校PTA 「朝光」
遊佐町立遊佐小学校PTA 「ゆざ」
米沢市立西部小学校教育会 「せいぶ」
最上町立大堀小学校PTA 「清流」
米沢市立第六中学校父母と教師の会 「鬼面」
上市市立北中学校PTA 「若竹」
新庄市立新庄中学校父母と教師の会 「木かげ」
米沢市立第四中学校教育振興会 「城北だより」

令和5年度山形県PTA連合会会長表彰

感謝状 (令和4年度県P連役員退任者)

船橋 吾一	佐藤 弘康	味田 勝徳
齋藤 春樹	原田 拓	津藤 健士
平山 龍一	柿崎 和朗	鈴木 勝志
油井 邦宣	野口 義明	石川 雄一
高見 佳澄	渡部香陽子	高橋 典子
江口 俊和	吉田 正彦	

表彰状 (郡・市P連より推薦)

鹿又 源州	海和 伸吉	五十嵐 孝
高橋 孝之	高橋 美保	村上 康広
井上 賢哉	渡邊 市也	阿部 勉

山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。
関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

《条例の主な内容》

- ◎交通ルールの遵守 ◎自転車の安全利用 ◎自転車保険の加入義務化
- ◎自転車交通安全教育の充実 ◎自転車の適正な管理
- ◎令和5年度より、自転車運転者のヘルメット着用努力義務化

※自転車損害賠償保険等への加入について

児童・生徒の自転車での事故による損害については安全互助会に加入していることで補償の対象となります。未加入の学校PTAは是非ご検討下さい。

安全互助会ってなあに？

～加入については学校PTAごとになります～

- *補償内容によって6コースがあります。(令和6年度から変更)
- *児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶発の事故での賠償事故を補償します。
- *PTA行事中のPTA会員(児童・生徒含む)の傷害事故・賠償事故を補償します。

▽近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1,000万円のコースをおすすめします。

- ・特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

▽子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- ・ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

▽事故の未然防止が一番大切です。

- ・傷害事故の中でスポ少やクラブチーム活動中の事故が最多となっています。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入 261校の内訳				傷害事故支払状況 (単位:千円)				賠償事故支払状況 (単位:千円)			
A	58	特A	190	年度	件数	児童・生徒	件数	PTA 傷害	年度	件数	PTA 傷害
B	1	特B	10	令和2年度	1,001	11,749	3	1,618	令和2年度	42	1,903
C	1	特C	1	令和3年度	1,034	11,394	3	64	令和3年度	56	3,407
				令和4年度	971	10,196	7	693	令和4年度	60	3,435
				令和5年度(6.1.31現在)	732	8,283	12	837	令和5年度(6.1.31現在)	54	2,321



タブレット端末等の破損について

学校から持ち帰ったタブレットを自宅で誤って壊した場合、他人から借用した時点でその借用物に対する管理責任が生じるため、保険金のお支払い対象外となります。

令和6年度からPTA会員の皆様の補償制度が大きく変わります!

<安全互助会の流れが変わります!>

- *24時間365日いつでもお電話で事故のご報告・問い合わせができます!
- *保険会社へ保護者から直接お電話して下さい!学校・県PTA安全互助会を経由しません。
- *S(700円)・A(600円)の2コースで、掛け金・補償内容は今までと同じです。(PTA役員責任補償・PTA役員弁護士費用が追加されました!)
- *令和5年度までの傷害事故・賠償事故は、引き続き共栄火災(株)が対応いたします。(県PTA安全互助会へ連絡ください)

<やまがた子供総合保障制度が始まります!>

- *各ご家庭の任意加入制度です!
- *充実保障プラン～廉価プランの4プランから選べます!
- *部活動や部活動の地域移行、塾や習い事、学校の休みも含めて24時間補償!(学校管理下も補償されます。1日からでも補償されます。)
- *学校貸与学習端末(タブレット等)の破損、紛失等に対応!
- *いじめやSNSトラブルなどのトラブル被害対応費用を補償

【事故が発生した時のお手続きの流れ】

- 1 事故が発生したら、保護者から保険会社に直接連絡
- 2 請求書類一式を送付
- 3 請求書類を提出

手続き完了

保護者の皆様へ 2024年度
山形県PTA連合会 **20% OFF**
やまがた子供総合保障制度のご案内
(こども総合保障+おとな総合保障)

大切なお子さまを
1日24時間、補償!
 部活動や塾・習い事、学校の休みも含めて24時間補償! 学校管理下も補償されます。1日からでも補償されます。
 山形県PTA連合会の安全で適正な利用の促進に関する条例(県PTA安全互助会)の取組に賛同する学校(約1,000校)の保護者様へ

第七十六回 山形県PTA研修大会鶴岡東田川大会案内

鶴岡市PTA連合会 会長 丸山 裕司

次回の山形県PTA研修大会は、令和六年十月十九日土曜日、鶴岡市の荘銀タクト鶴岡を会場に、鶴岡市PTA連合会および東田川郡PTA連合会が主管となつて開催します。大会主題を「育てよう 未来を生き抜く 子どもたち 〳〵家庭・学校・地域で育む『夢と自律』〳〵としました。

今回の研修は、神奈川県横浜創英中学・高等学校校長 工藤勇一氏の講演を行います。工藤氏は、子供たちが人から指示やサービスを受けることに慣れた人間になるのではなく、「自分で考え、判断し、決定し、行動できる力（自律の力）を身に付け「自分たちで解決しよう」という当事者意識を持つことが大事と唱え、以前勤務していた東京都麹町中学校校長時代に「宿題の全廃」「定期テストの廃止」「固定担任制の廃止」「校則の全廃など学校の「当たり前」をやめて、子供の自律を重視した教育改革に取り組んできました。現在の勤務校でも教育改革を行い、以前人気がなかった高校が現在は五割を超え

る生徒が第一志望で入学しているとのことです。

現代社会は多種多様化しめまぐるしく変化しており、子供たちや学校では教育環境の変化やSNS問題、いじめや不登校など課題が複雑化、多様化している中で、これまでの固定概念や価値観に拘らない考え方が必要なかもしれません。この研修で子供たちの生きる力をつけるために私たちができることを共に考えていきたいと思えます。

私たちは、これからの二十一世紀を生き抜く子供たちの健やかな成長と幸福の実現を目指し、学校・家庭・地域が一体となつて子供たちを取り巻く環境を改善し、夢や希望を抱く地域社会を創るためにPTAを通して学び続けていきましょう。

私たち実行委員会は、この大会が「子供たちのためのPTA」、「大人の学びのためのPTA」として大きく推進することを願ひ準備して参りますので、ぜひ多くの会員みなさまのご参会をお願い申し上げます。

令和4年度 山形県PTA連合会役員名簿

職名	氏名	所属	学校名	職名	氏名	所属	学校名
会長	武田 靖裕	山形市PTA連合会	山形四中	理事	伊藤 正美	酒田飽海PTA連合会	松陵小
副会長	長谷川吉之介	山形市PTA連合会	山大附属小	理事	高橋あゆみ	県P母親委員会(委員長)	山形一中
副会長	高橋 義和	西置賜地区PTA連絡協議会	白鷹中	理事	高橋 智文	県P母親委員会(副委員長)	天童一中
副会長	丸山 裕司	鶴岡市PTA連合会	藤島中	理事	佐藤 昌彦	県連合小学校長会	山形三小
副会長	國分 亮一	最上地区PTA協議会	新庄小	理事	森本 真紀	県中学校長会	山大附属中
理事	神保 智善	上市市PTA連合協議会	上山北中	監事	井上 哲寿	山形市PTA連合会	山形一小
理事	森谷 輝文	天童・東村山地区PTA連合会	中山中	監事	長瀬 弘	天童・東村山地区PTA連合会	寺津小
理事	宮林 成明	西村山PTA連合会	陵南中	監事	栗原 宏之	県小中学校教頭会	山形十小
理事	坂井陽一郎	北村山PTA連合会	楯岡中	事務局長	大江 昌信		
理事	森谷 康弘	米沢市PTA連合会	米沢三中	事務局員	佐藤 静子		
理事	土屋 道明	東置賜地区PTA連合会	赤湯中	事務局員	高見 佳澄		
理事	日向 誠	東田川郡PTA連合会	立川中				

お知らせ 「能登半島地震災害支援活動・書き損じ葉書回収」について

令和6年1月1日に発生した「能登半島地震」は、甚大な被害をもたらしました。被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。山形県PTA連合会として被災地の子供たちの教育環境を復旧する一助となれるよう、下記のように「能登半島地震災害支援活動・書き損じ葉書回収」を行うこととしました。「書き損じ葉書」を回収し、その収益を県PTA連合会が被災地PTA連合会(協議会)と協議の上、送金し、被災した子供たちが元の生活に戻れるように役立ててもらおうものです。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

1. 名称 : 山形県PTA連合会「能登半島地震災害支援活動・書き損じ葉書回収」
2. 受付期間 : 令和6年3月1日(金)～令和6年7月31日(水)まで
3. 回収方法 : 各単位PTAで「書き損じ葉書」を回収し、県PTA連合会事務局に送付する。
(直接、山形県PTA連合会事務局に持参いただいてもかまいません。)